

松浦建設(札幌市)

代表取締役 松浦邦充氏

工務店×建築家

エスエーデザインオフィス

一級建築士事務所(札幌市)

代表 小倉寛征氏



外観

第6回 ゼロカーボン ヴィレッジ対談

地域工務店と建築家が協働グループを組んで北方型住宅ZEROの住まいづくりを行う空知管内南幌町の「みどり野ゼロカーボンヴィレッジ」。現在11グループの基本プランが公開され、オーナーを募集中だ。工務店と建築家がどのような考えでこのプロジェクトに参加し、どのように協働していったのか、対談形式で内幕を聞くシリーズ。第6回は松浦建設(札幌市)代表取締役の松浦邦充氏とエスエーデザインオフィス一級建築士事務所(同)代表の小倉寛征氏。性能の数字を争うのではなく、ゼロカーボンの暮らし方を提案することが大切というプランについて聞いた。

可変性のあるL型の平屋

小倉氏と松浦氏は、南幌町みどり野きた住まいのヴィレッジでもタッグを組んでいる。本年9月に1棟目が竣工し、2棟目にも着手したところだという。

今回のゼロカーボンヴィレッジは、小倉氏が松浦氏の得意とする部分、1m断熱やパッシブ換気などの技術を取り入れる形で進めた。

環境が形を決める
小倉 プランのポイント

は、日の光をしっかりと受け止めるL型の形です。南西側に開く形なので1日中どこかに日差しが当たる。壁面に太陽光発電パネルを設置して、南面だけではなく東西面からの日射、朝日や夕日で

も効率よく発電ができるようにしています。松浦 平屋というのは自然に決まりましたね。小倉 私は、平屋は最高の贅沢だと思っています。です。広い敷地に恵まれた環境を全部使って、大らかに平屋でのびのびとした暮らしができる。松浦 あと、南幌は風がすごいですよ。2階建てで屋根を施工するとき怖いだらうなと思うくらい吹くんです。平屋にはそういう発想もありますね。小倉 平坦な土地なので自然環境の影響を受けやすいわけですね。光の向きと風の向き、そういうところから建物の形を発想していく。

自由を支える骨格

小倉 スパンを短くL型

に取ることで、短手の空間はほとんど中空で作れるんです。松浦 短手の間隔が2間なのはそういう意図ですね。小倉 そう。だからこの間には柱は必要ないんです。そうすると、今の間取り図では居間と2部屋に

住文化を作っていく

小倉 ゼロカーボンヴィレッジのプロジェクトが

目指しているのは、雰囲気の良い町に理念を共有する人たちが集まって、楽しく仲良く暮らすということ。それを成すために技術とか性能があるんですよね。性能のために暮らしているわけじゃないし、技術のために家を建てるわけじゃない。松浦 この辺のコンセプトを理解してくれる方に、できれば買っていた方がいいなと思いますよね。性能よく作るのにはここに参加している以上当たり前なんです。でもその意図を理解していただける方にね。小倉 きっと他のグループもみんな同じ志を持っていると思うのですが、ゼロカーボンヴィレッジ全体として出来上がった時に、あそこは北海道らしい暮らしが実現できているよねってなっていた。それを見て、また違うエリアでもその土地らしい暮らしを実現したいという風に広がると思いますよね。そうすると住文化というか、北海道らしい暮らしとか住まいの文化が発展する。松浦 やっぱ未来に向けた挑戦をするということ、ここはちょっと私の中で商売とは別ですね。使命感じゃないですけど。小倉 今現場で頑張っている工務店や建築家の出番がどんどん減っている。生活の根幹、「衣食住」の「住」を担っている大工さんや職人さんがみんないなくなってしまう。それは嫌だよね。松浦さんをほじめトプランナーのビルダーの皆さんも、きっとこれらで利益を出そうなんて思っ

て参加してないわけですね。利益なんか上がらないけど、自分たちがやっていることが本当は正しいと思っていて、その危機意識とプライドがある。ゼロカーボンヴィレッジができたからって急に世の中が変わるわけではない。でも、住文化を作っていくという、大きなムーブメントの一つなんだろうなと思います。



平面図



建築模型